

2023年度 防災教育 交流フォーラム



Disaster Management Education Networking Forum

学校・地域連携を高める防災教育～コミュニティ・スクールを基盤とした展開～

防災教育チャレンジプランは、
2023年度防災教育交流フォーラム
の一部をぼうさいこくたい2023と
連携して開催します。

ぼうさいこくたいとは？

ご家族連れから専門家まで
幅広い方が防災を学べる
日本最大級の防災イベントです。

2024年度
新・防災教育チャレンジプラン
募集中

11月15日(水) 15時締切

防災教育交流会：2023年9月18日10:30～12:00
横浜国立大学(ぼうさいこくたい2023会場)
中間報告会：2023年10月14日14:00～16:30
オンライン開催

9月18日(月・祝)は、防災教育各分野の代表者による基調講演と意見交換会、
10月14日(土)は、2023年度防災教育チャレンジプラン実践団体の活動中間発表を行います。

www.bosai-study.net

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府(防災担当)、国立研究開発法人防災科学技術研究所

共催：一般社団法人防災教育普及協会

後援：消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、防災未来賞ぼうさい甲子園事務局



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。



2023 年度防災教育交流フォーラム



日時	プログラム	講演講師・発表者(敬称略)
防災教育交流会 9月18日(月・祝) 10:30-12:00 ※ぼうさいこくたい2023 と連携	<テーマ>	学校・地域連携を高める防災教育～コミュニティ・スクールを基盤とした展開～
	基調講演	佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授
	パネル ディスカッション	コーディネーター: 佐藤 公治 博士(環境人間学) / 南三陸町立歌津中学校 主幹教諭 パネリスト: 竹原 和泉 特定非営利活動法人まちと学校のみらい 代表理事 鷺山 龍太郎 元横浜市立小学校長 「防災塾・だるま」塾長 佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授 村山 猛 千葉県立香取特別支援学校 校長 木下 史子 文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官 (敬称略)

日時	プログラム	発表団体(敬称略)
中間報告会 10月14日(土) 14:00-16:30 ※防災教育チャレンジ プラン独自開催	実践団体 発表についての 意見交換	【2023 年度防災教育チャレンジプラン実践団体】 全 11 団体 X-Bridge プロジェクトグループ 兵庫県立明石北高等学校 淑徳大学 地域共生センター 石巻市立桃生中学校 下北 BOUSAI ネットワーク(むつ市内4校合同プロジェクト) 出張!ふれあいルーム 岡山市立操南中学校 東京都立調布特別支援学校 泉南市立西信達中学校 よんなな防災会学生部 見てみよう! 常総市の会

■ 発表・講演等の記録について

- ・防災教育交流フォーラムの記録のため、事務局にて音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料はデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関連の媒体(ホームページ、パンフレット、報告書等)への掲載、または関係者への提供を行うことがありますので、ご了承ください。



防災教育交流会



学校・地域連携を高める防災教育
～コミュニティ・スクールを基盤とした展開～

ぼうさいこくたい2023

9月18日(月・祝)

10:30	開会	
10:31	開会挨拶	西澤 雅道 内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官補佐(普及啓発・連携担当)
10:33	趣旨説明	佐藤 公治 博士(環境人間学) / 南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
10:38	基調講演	佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授
10:58	パネルディスカッション	コーディネーター: 佐藤 公治 博士(環境人間学) / 南三陸町立歌津中学校 主幹教諭 パネリスト: 竹原 和泉 特定非営利活動法人まちと学校のみらい 代表理事 鷺山 龍太郎 元横浜市立小学校長 「防災塾・だるま」塾長 佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授 村山 猛 千葉県立香取特別支援学校 校長 木下 史子 文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官
11:54	全体講評	佐藤 公治 博士(環境人間学) / 南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
12:00	閉会	

(敬称略)

基調講演講師の紹介



佐藤 健 (さとう たけし)

東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野
教授

一略歴

東北大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。博士（工学）。日本安全教育学会常任理事。内閣府「防災教育チャレンジプラン実行委員会」委員、文部科学省「学校安全に係る専門性向上支援事業有識者会議」委員、宮城県「教育振興審議会」委員、宮城県「学校防災アドバイザー」、石巻市「学校防災推進会議」委員長など。

コーディネーターの紹介



佐藤 公治 (さとう こうじ)

博士（環境人間学）
南三陸町立歌津中学校
主幹教諭

一略歴

勤務する中学校で、防災教育とCSを掌理している。生徒が誰の指示も受けずに主体的に取り組む「避難所運営活動」を核とした防災教育を、教育課程に、全学年、年間30時間位置付け、延べ100名程の地域住民と共に、地域学校協働活動として実践し、生徒たちの「生きる力」を育み、地域のレジリエンス向上を目指している。



パネリストの紹介



竹原 和泉 (たけはら いずみ)

特定非営利活動法人まちと学校のみらい
代表理事

一略歴

東京学芸大学理事。横浜市青葉区において中高生・大学生のまちづくりをすすめるとともに、各地の学校と地域の連携・協働をサポート。中央教育審議会臨時委員、コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議等を歴任。文部科学省総合教育政策局CSマイスター 著書「学校と社会をつなぐ」学事出版（2021年）



鷺山 龍太郎 (わしやま りゅうたろう)

元横浜市立小学校長
「防災塾・だるま」塾長

一略歴

横浜市立小学校長として、学校運営協議会を通して、地域、保護者等と連携した防災教育と防災まちづくりを実践。退職後は、行政、地域、学校等の依頼を受けて防災講演や支援活動に取り組む。神奈川を中心に活動する市民団体「防災塾・だるま」代表として防災・減災に関わる連携づくりと啓発活動を推進。

パネリストの紹介



村山 猛 (むらやま たけし)

千葉県立香取特別支援学校
校長

一略歴

2010年から、知的障害教育における防災・安全教育及び特別支援学校の学校安全・危機管理について、実践を積み重ねている。内閣府・防災教育チャレンジプラン実行委員会委員、文部科学省・第11期中央教育審議会初等中等教育分科会学校安全部会委員



木下 史子 (きのした ふみこ)

文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育調査官

一略歴

兵庫県姫路市出身。岡山県公立小学校教諭。
2011年4月から岡山県教育庁で学校安全、学校文化、社会教育行政を担当。
うち3年間、岡山県庁で県警察と協働で「子供の安全対策」を推進。
2023年4月から現職。



中間報告会



防災教育チャレンジプラン独自開催

10月14日(土)

14:00 開会		
14:00 開会挨拶		
内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当) 防災教育チャレンジプラン実行委員長		村上 威夫 林 春男
14:10 今年度の趣旨・概要の説明		
防災教育チャレンジプラン実行委員		木村 玲欧
14:25 ブレイクアウトルーム(実践団体発表についての意見交換)		
■ブレイクアウトルーム方式で実施 防災教育チャレンジプラン実践団体(11団体)と防災教育チャレンジプラン実行委員、一般参加者が各ルーム内で意見交換を行います。		
ルームA テーマ:公立学校 進行役:諏訪委員 リポーター役:南島委員 石巻市立桃生中学校 東京都立調布特別支援学校 岡山市立操南中学校 泉南市立西信達中学校	ルームB テーマ:高校・大学 進行役:船木委員 リポーター役:中川委員 X-Bridge プロジェクトグループ 兵庫県立明石北高等学校 下北 BOUSAI ネットワーク(むつ市内4校合同プロジェクト) よんなな防災会学生部	ルームC テーマ:地域 進行役:舟生委員 リポーター役:田上委員 淑徳大学 地域共生センター 出張!ふれあいルーム 見てみよう!常総市の会
15:55 クロージングセッション(議論の共有・まとめ)		
防災教育チャレンジプラン実行委員		木村 玲欧(進行役) 南島 正重 中川 和之 田上 順一
16:20 全体講評		
防災教育チャレンジプラン実行委員長		林 春男
16:25 閉会挨拶		
内閣府政策統括官(防災担当)付 企画官(普及啓発・連携担当)		村上 威夫
16:30 閉会		

実践団体の紹介

X-Bridge プロジェクトグループ

プラン名

橋梁流失リスクのオープンデータから始める気候変動適応ワークショップ「X-Bridge」

応募部門

高等学校の部～大学・一般の部

所在地

兵庫県神戸市



一目的・特徴等

気候変動に伴う水害の激甚化により、橋梁の流失リスクが増大しています。本活動では、自らの住む街を知り災害に備えるため、GISオープンデータを活用するワークショップを通じて、市民が水害時流失リスクの高い橋梁を可視化し、防災意識向上ひいては総合的な気候変動適応に貢献します。ワークショップの教材もオープンソース化することでこのような取り組みの実施を促進し、ローカルデータがGIS上に集約され、研究に活用されていく仕組みの事例化を狙います。



一団体紹介

X-Bridge チームは、神戸情報大学院大学の研究チームとして発足、各分野の社会人有志が集まり、中部大学国際 GIS センターや BCorp である（株）オシテックの支援を受けつつ非営利で活動を進めてきました。橋梁の専門家、気候変動の研究者、オープンサイエンス、シビックテック、社会起業家等という多種多様なバックグラウンドとスキルを持つメンバーで構成され、専門領域にとらわれない越境的思考で解決策を導く事を旨としています。直面する気候変動への適応のため、ソフト・ハード両面での活動を推進し、積極的に提案・行動する大人の部活的な研究チームです。

兵庫県立明石北高等学校

プラン名

SDGs×防災で未来を拓く

応募部門

高等学校の部

所在地

兵庫県明石市



一目的・特徴等

1. 地理総合で「持続可能な地域づくり」と「防災」を関連付けて学び、地域の自然環境と社会環境を踏まえた防災力を身につける。
2. SDGsと防災の共通点（＝誰一人取り残さない）に着目し、我がこと意識を持って社会の課題と向き合い、ダイバーシティを実現する人材を育てる。
3. 明石市が掲げる「SDGs未来都市計画」と「強靱化地域計画」の関連性を高校生の視点で検証し、専門家の指導助言も取り入れながら「SDGs×防災」の取り組みを提案する。



一団体紹介

生徒一人一人が持続可能な社会づくりの担い手としての自覚を持ち、国際社会や地域活動に積極的に参画・貢献できるよう成長することを目指しています。そのため各教育活動に SDGs の観点を取り入れ、グローバルな発想で主体的・協働的に課題解決に立ち向かう力を大切にしています。令和4年度から兵庫県中高生防災ジュニアリーダー育成事業に加わり、生徒主体の活動を進めています。また、スーパーサイエンスハイスクール事業を軸とする教科横断的な学習や地域における学びと発信を通して、探究力を中心に総合的な力を磨いています。





実践団体の紹介

淑徳大学 地域共生センター

プラン名

地域と共に大学の避難時対応について考える
～淑徳大学のファーストミッションボックス～

応募部門

大学・一般の部

所在地

千葉県千葉市



一目的・特徴等

地域共生センターにて今後展開される事業の1つである「災害支援活動」や「支援環境整備」は、学生・教職員・卒業生等の様々な立場からの「災害」の意見を共有しながら模索し、今後起こりうる災害の支援体制を構築していきます。

災害時に避難所となりうる大学の地域貢献のあり方の検討と学習を在學生・教職員・地域住民と一緒にファーストミッションボックスの作成やワークショップ、実践を交えながら進めていきます。

一団体紹介

淑徳大学は、他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる「利他共生」の精神のもと、社会福祉の単科大学から始まり、現在は千葉・埼玉・東京に4キャンパス、7学部13学科を擁する大学です。

また、「建学の精神の行動化」をいっそう推進するため、2023年4月より、新たに地域共生センターを創設しました。本センターでは、学生とその学びを支える教職員、卒業生や地域の方々が、自らを起点として「共生」とは何かを考え、一人ひとりが共生社会の実現に向けた第一歩を踏み出すための応援の場となることを目指して運営しています。



石巻市立桃生中学校

プラン名

伝えよう震災の記憶、感じよう命の大切さを

応募部門

中学校の部

所在地

宮城県石巻市



一目的・特徴等

東日本大震災について調べ学習を行い、改めて防災の大切さと命の尊さ・大切さについて深く考え、それを他に発信していきます。調べ学習や意見交流を通し、生徒自身が震災の記憶を語り継ぐ担い手となることで、地域防災を支えていく自覚を高めます。また、地域や小学校と連携した取組を展開することで、地域全体の防災への意識を醸成していきたいと考えています。

一団体紹介

桃生中学校は、宮城県石巻市の北西部に位置し、北上川と旧北上川に周りを囲まれ、緑豊かな自然の中に立地しています。開校から53年目を迎えた町域にある唯一の中学校で、地域の期待も厚く、脈々と地域の伝統文化を継承している伝統ある学校です。すずめ踊りの源流とも言われている伝統芸能「はねこ踊り」が特に有名で、地域と連携した取組により全校生徒が踊りを心得ており、行事で披露することが地域の風物詩となっています。石巻市民として東日本大震災の記憶を語り継ぎ、命の大切さを発信できるよう学習に取り組んでいます。



実践団体の紹介

下北 BOUSAI ネットワーク（むつ市内4校合同プロジェクト）

プラン名 グローバル社会における「防災教育」

応募部門 高等学校の部～大学・一般の部

所在地 青森県むつ市



一目的・特徴等

東日本大震災から11年。震災が歴史となりつつある今、東日本大震災の記憶を後世に伝えると同時に、防災教育の普及・拡大を目的として、むつ市内にある県立学校4校が協同して取り組むプロジェクトである。地域の生徒の防災意識の高揚と知識、技術の定着だけでなく、災害時に災害弱者になる可能性のある障がい者、高齢者、外国人などに対応した、グローバルな防災教育について研究・実践、ネットワークの構築を目指している。



一団体紹介

下北 BOUSAI ネットワークは、青森県むつ市にある県立学校4校（大湊高校、田名部高校、むつ工業高校、むつ養護学校）が協同でプロジェクトを進める組織である。成立は2022年1月に実施した、市内4校合同・震災から学ぶプロジェクト（被災地訪問及び防災研修）である。以降、市内4校での合同報告会、各学校での活動という、全体と個別を組み合わせた形で進めている。地域の防災はもちろん、多様化・グローバル化する社会の構成員すべてを守るため、各学校の特色・強みを生かし、防災教育を進めるユニークな防災ネットワークである。



出張！ふれあいルーム

プラン名 災害時を想定した車中泊プロジェクト（プチ家出の練習♡）

応募部門 大学・一般の部

所在地 和歌山県上富田町



一目的・特徴等

災害時の車での避難は推奨されていませんが、車社会に暮らす高齢化地域の私たちは、車を選択する可能性が高いと思われます。

あえて、「災害時に車を使うこと」を選ぶのであれば、地震と豪雨災害を分けて考え、どんな知識と準備が必要か、車を使ってはならない状況を見極めるためには、どんな学習が必要かを考え、共有し、実際に試すことで、車での避難時の事故や、災害関連死となることなく安全、快適に過ごすことを目的としています。

一団体紹介

大人と親子を対象に、防災とは本来は自分のもので、日常のあらゆることが「防災＝生きるチカラ」に繋がっていることを知り、防災を心から楽しんでいる団体です。ラインや ZOOM を使って、同日にそれぞれの場所で災害時を想定した車中泊訓練をしたり、互いの得意分野を教え合ったり、本や備蓄グッズ、トイレにまつわる実体験などの情報交換などを行っています。更に、それぞれが所属している団体との新たな繋がりも増えました。

同じ地域で頑張る仲間も大切ですが、遠くの仲間ともこのように繋がることで、活動の幅や可能性が広がっています。





実践団体の紹介

岡山市立操南中学校

プラン名 「操南中&防災チャレンジ with “よりそい愛”」

応募部門 中学校の部

所在地 岡山県岡山市



一目的・特徴等

「操南中&防災チャレンジwith “よりそい愛”」では、地域住民の方々とともに、「わが町・操南」をより持続可能なカタチで創っていかうとの思いから、「つながり・よりそう」視点を本プランのコンセプトとしています。生徒たちが地域や外部・専門機関等との繋がりのもとで取り組んでいるSDGs推進活動や防災・減災に関わる学習を生かし、生徒たちの心をさらに動かす「防災キャンプ」を地域の住民の方々と共に創出し、多方面へと情報発信していきたいです。



一団体紹介

本校は、1947年創立の生徒・教職員850名強を擁する、岡山市街地南方にある公立中学校です。「操南中学校SDGs宣言」(2021年生徒会採択)以来、総合的な学習の時間(操南タイム)および生徒会活動を軸とした、持続可能な地域・社会づくりに繋がる教育活動を展開しています。



防災・減災に関わる学習では、東日本大震災、西日本豪雨災害、阪神淡路大震災などを通して、多面的に災害について学んだ上で、地元住民の方々と連携・協働した参加型・対話型の学習活動を行うことで、学校一地域、世代間のつながりを大切にした地域防災学習を目指しています。

東京都立調布特別支援学校

プラン名 コロナ禍後の持続的に発展可能な福祉避難所開設計画

応募部門 小学校の部～中学校の部、大学・一般の部

所在地 東京都調布市



一目的・特徴等

地域のニーズに応えられる福祉避難所のスマートでスムーズな開設の仕組みづくりをします。本校・行政・大学・地域住民等が福祉避難所の開設という共通の目的で連携し、協議や訓練を重ねて災害時の実践的な対応力を磨き、「福祉避難所開設マニュアル」を整備します。入口を遠隔で開錠する仕組みの改善や、特別支援教育のノウハウを生かした避難者が安心できる空間の実現等、コロナ禍後の福祉避難所開設の最適な形を追求します。



一団体紹介

本校は1976年開校の、知的障害がある子供のための都立特別支援学校で、小学部・中学部合わせて170名近くが学んでいます。通学区域は調布市・三鷹市・狛江市で、「『地域』に生き、ともに伸びる学校」というスローガンを掲げ、地域と連携した教育活動を通して共生社会の実現に向けた基盤づくりを行っています。地域とのつながりが深く、調布市、近隣の市立小学校と国立大学、隣接するマンションとの間に、それぞれ防災協定を結んでいます。本校の児童生徒を応援する地域住民によるボランティア組織もあり、様々な協力を得ています。

実践団体の紹介

泉南市立西信達中学校

プラン名 みんなでたすかる～つながる防災プロジェクトN～

応募部門 中学校の部

所在地 大阪府泉南市



一目的・特徴等

防災学習を学校教育の柱とし、中学生とともに地域の防災活動に取り組むことで、家庭や地域の防災意識を高める。保育所・小学校・中学校、保護者、地域のつながりを意識し、交流を主とした活動を展開する事で、実践的で地域にあった防災学習・防災プランを共に生み出す。また、「楽しみながら、防災を！」を合い言葉に防災学習を計画し、中学生の気づきと探求活動をサポートする。西信達地域で長く続いていく新たな防災教育・地域防災行事の骨格を作る。



一団体紹介

本校は、泉南市の北西部に位置し、西側は大阪湾に接しています。生徒数は169名の小規模校です。また、校区は1小学校・1中学校で構成され、元々は漁業や農業が中心で地域としての絆が強い所です。近年新興住宅や大手スーパーが建設され、地域の生活環境も大きく変化しています。海に近く、素朴な土地柄であり、総じて明るく、親しみやすい人柄の生徒が多く、「自分のよさを他者のために生かす活動」として防災教育を実践することで生徒の自己実現を応援し、中学生の力を地域に活かしていきたいと思えます。



よんなな防災会学生部

プラン名 防災人材輩出のための防災キャリア教育

応募部門 中学校の部～大学・一般の部

所在地 静岡県静岡市



一目的・特徴等

災害が多発する日本では、これからの時代を生きる若者の防災意識の向上、人材育成、防災に関わる若者の増加は喫緊の課題です。本プランでは、多様な防災への関わりを行う方を紹介し、より多くの学生に防災に関する仕事を知ってもらい、防災キャリアへの関心を持ってもらう機会を創出することが目的です。

社会人や学生同士での対話を行うことで、自分なりの防災との継続的な関わりを創出します。ひいては、若者の防災アクターの増加が期待できます。



一団体紹介

47都道府県の公務員をはじめ、地域防災の担い手や民間企業の方、学生等が参加している「よんなな防災会」を母体とし、全国の防災に関心のある学生が集い、交流を図る会です。

全国各地の学生が防災・減災をキーワードにイベントや交流会を通してつながることで、防災活動の輪を広げることを目的としています。主な活動は、「防災知識の習得・共有」「防災関連の意見共有会」「交流会」の3つです。これらの活動で生まれたつながりから新たな活動への発展や連携を目指しています。現在、約80名の学生（中学生～大学院生）が参加しています。



実践団体の紹介

見てみようよ！常総市の会

プラン名

オープンストリートマップ水害地図充実化から始める『(Web 上) 常総水害ボランティア顕彰館』構築準備事業

応募部門

大学・一般の部

所在地

茨城県常総市

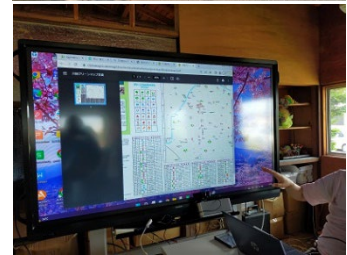


一目的・特徴等

平成 27 年関東東北豪雨災害から 7 年となる常総市において、2022 年度は水害記憶の次世代継承のため、web 上の無料プラットフォーム「オープンストリートマップ (OSM)」を活用した「発見街歩き地図作りイベント」とその後の OSM への随時書き込み可能化を、観光振興と抱き合わせたかたちで推進した。2023 年度はさらなるコンテンツを収集、OSM 充実化を図り Web 上『常総水害ボランティア顕彰館』構築のための資料ソースと構築企画者を含めたネットワークを強化し、同資料館サイトの構築プランを練る準備へ着手する。

一団体紹介

当会は、平成 27 年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として設立。市内の各地（許可を得た場所）に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」や、川と街を舞台にしたガイドウォーク、カヌー体験等の水害継承イベントを実施してきた。2022 年度から web 上の無料地図「オープンストリートマップ」を活用した取組を実施してきている。



防災教育チャレンジプランとは？

■ 防災教育チャレンジプランの目的

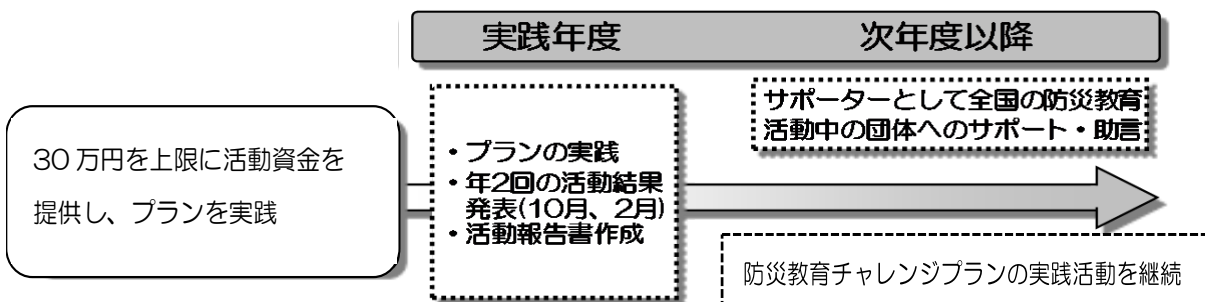
国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。防災教育チャレンジプランは、このような災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。



■ 防災教育チャレンジプラン実践団体の構成と実践スケジュール





実行委員の紹介

(委員長)

林 春男	京都大学 名誉教授
池田 真幸	国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程研究部門 契約研究員
井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
鍵屋 一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
金田 義行	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長・地域強靱化研究センター長・学長特別補佐・特任教授
木村 玲欧	兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授
国崎 信江	株式会社危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
栗田 暢之	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
酒井 慎一	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授
佐藤 公治	南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
佐藤 健	東北大学 災害科学国際研究所 防災実践推進部門防災教育実践学分野 教授
澤野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
諏訪 清二	防災学習アドバイザー・コラボレーター
田上 順一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局次長
中川 和之	株式会社時事通信社 解説委員
平田 直	東京大学 名誉教授
福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授
船木 伸江	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授
舟生 岳夫	セコム株式会社 I S 研究所リスクマネジメントG 主務研究員
南島 正重	東京都立両国高等学校附属中学校 元・主幹教諭
村山 猛	千葉県立香取特別支援学校 校長
岡本 弘基	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災企画官
木下 史子	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室 安全教育調査官
志賀 真幸	消防庁国民保護・防災部防災課 地域防災室長
村上 威夫	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)
吉田 和久	文部科学省研究開発局地震・防災研究課 防災科学技術推進室長

(2023年8月1日現在、所属役職別 50音順、敬称略)

防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランは、いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できる限り被害を減らし、万が一被害にあったときでも、すぐに立ち直れる力を一人一人が身につけられるよう、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

そのプランの準備・実践に当たっては発生する経費への支援や、実現に向けた「防災教育チャレンジプランアドバイザー（防災教育チャレンジプラン実行委員や、サポーター（過去の実践団体）等）」によるアドバイスなどの支援を行います。

2004年の開始以来、支援をしたたくさんの実践プランは、新たに防災教育を始める学校・団体等にとっては良いモデルとなり、全国の防災教育の教材や手法開発に大きく貢献してきました。

現在、学校では、ICT教育が進められ、生徒全員がタブレットを持って学習するスタイルが定着するとともに、コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した学校と地域の連携が進みつつあります。地域においても、地区防災計画などを通じた住民同士の顔の見える防災体制づくりが進められています。「第3次学校安全の推進に関する計画」も踏まえ、地域との連携・協働、デジタル技術等を活用した学びをさらに推進していく必要があります。

そこで、21年目を迎える2024年度からは、「新・防災教育チャレンジプラン」として再スタートし、時代に即した重点テーマを設定します。具体的には、①「学校・地域連携」、②「デジタル等企業の技術を用いた防災教育」を重点テーマに設定し、これらのテーマに沿った取組を積極的に採択します。

サポート内容	<ul style="list-style-type: none">■プランの実践にかかる経費の提供／上限30万円（査定による）※経費は、実践活動終了後の「完了払い」となりますので、活動期間中は各実践団体での立て替えとなります。活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。■プランの実現に向けて、下記サポート主体が対面・オンライン問わず助言や現地指導等の支援を行います。■防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種 Web ツールを提供します。
サポート主体	<ul style="list-style-type: none">■防災教育チャレンジプランアドバイザー<ul style="list-style-type: none">・防災教育チャレンジプラン実行委員・防災科学技術研究所研究員・サポーター（過去の実践団体）・その他防災教育専門家等■防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
表彰	<ul style="list-style-type: none">■活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。■防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

2. 応募資格

- 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）
- 採用された場合は、開催予定の実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。
- オンライン開催となった場合、参加可能なインターネット環境（通信回線、機材、アプリケーション等）を用意できること。



3. 応募部門（学年区分、テーマ区分の両方を選んでください。）

【学年区分】

- A. 保育園・幼稚園等の部 B. 小学校低学年の部 C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部 E. 高等学校の部 F. 大学・一般の部

【テーマ区分】

- ① 学校・地域連携
② デジタル等企業の技術を用いた防災教育
③ その他

4. 応募締切

2023年11月15日(金)15時までに応募企画書をホームページにアップロード

5. 応募方法

応募を希望される方は、ホームページ(<http://www.bosai-study.net>)より事前登録をお願いします。事前登録後に、事務局より応募用紙の電子ファイル及び提出先を案内いたします。

6. 審査結果

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定します。

審査の結果は、事務局よりメールにて応募団体へご連絡します。(応募締め切り後1ヶ月程度)

※メールが正しく受信できないことによる連絡の遅れ等について事務局では責任を負いかねますので、事務局からのメールが受信、確認できる環境でご応募ください。(迷惑メールフォルダ等のご確認もお願いします。)



防災教育チャレンジプラン

■ 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail : cpinfo2865@bosai-study.net

■ 防災教育チャレンジプランホームページ
<http://www.bosai-study.net/>

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。